

事業所名： グループホーム あさひ東館

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390700060		
法人名	株式会社中央介護センター		
事業所名	グループホーム あさひ東館		
所在地	〒028-0014 久慈市旭町11-22-6		
自己評価作成日	令和5年11月15日	評価結果市町村受理日	令和6年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

数年にわたり、理念を『関わる全ての人の言葉に耳を傾け、その人の目線で物事を考える』と掲げている。理念が定着してきたこともあり、理念の共有を意識できる職員が増えてきた様に感じている。利用者の目線で考える事を軸として、家族や職員等関わる人達の事も視野に入れた考え方の重要性が定着してきた。
単独ユニットとして独立している為、職員だけでなく、関わる人たちの存在を大切にすることが、利用者への良いケアに繋がると考えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、高速道のICに近接し、近くに総合病院などがあり、受診、緊急搬送など医療体制が整った場所に立地している。また、施設に隣接して法人のグループホームや小規模多機能ホームがあり、避難訓練の支援、看護師の助言、指導を得るなど、連携が図られている。運営にあたっては、事業所の理念のもと職員毎の年度目標を立て、家族へ利用者の生活状況を「最近の様子」としてお知らせするとともに、利用者や家族の要望等を聴き取り、好みの食事、趣味、お手伝いなど、利用者の意向に沿った介護サービスを提供している。また、運営推進会議の提言を受け、人材確保、入所者の確保、事故対策に努めているほか、職員の提案を敬老会、ドライブなどの行事や調理用品の確保、勤務時間の変更など、業務の改善等に活かしている。さらに、資格取得の支援、研修への参加など、知識の習得、技術の向上に努めている。コロナ禍の動向に留意しながら、子ども御興の慰問、中学生や高校生の職場体験の受け入など、地域との交流にも取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム あさひ東館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『関わる全ての人の言葉に耳を傾け、その人の目線で物事を考える』を数年にわたり掲げる事で、理念の共有に繋がっている。理念が定着してきた事もあり、継続している。	グループホームの理念をユニット会議等を通じて共有するとともに、職員ごとの年度目標を立て、利用者の要望等を聴き取り、利用者の目線で、食事の好み、趣味や手習い、お手伝い、外出など、利用者の意向に沿った介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	9月の秋祭りでは、地域の子供神輿が慰問してくれたり、音頭挙げを披露しに来訪して頂いている。 また、事業所前を走行するJRのイベント列車に利用者が手を振る事を継続しており、今では、列車側から「いつもありがとう」等の返事をしてくれる様になっている。	地域の子供御輿の来所や高校生の研修、中学生の職場体験、施設の見学に対応しているほか、地域住民からスイカなどの差し入れもある。従来から続いているJR八戸線の運行車両への利用者の手振り、車両への表示などの交流について、近日中に報道機関の取材を受けることが予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常は、運営推進会議を通して地域の方へ取り組みを伝える様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催している場合、会議の内容については、施設内の会議やユニット会議に反映している。	市(地域包括支援センター)担当職員、近隣事業所、町内会長、消防団員等を委員と、利用者家族にも声掛けし参加の了承を得ている。今後は地域の民生委員にも依頼する意向である。今年度から参集で開催し、職員の確保、待機者の情報、事故防止対策などの提言や助言を業務の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議に参加してもらっている。また、包括支援センターとも困難事例があった場合等に連絡を取りあっている。	地域包括支援センターの担当職員から、関係情報の提供や補助金の活用などの助言を受けているほか、各種行政情報を文書、メールで得ている。要介護認定申請の際には、担当者から助言、指導を得ている。生活保護の受給者への指導も同様である。市や近隣の町の研修会に職員を派遣し、行政との連携を図るよう努めている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム あさひ東館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議(連絡会議やケア会議)にて、身体拘束について議題にしている。また、年に1回は施設内研修で身体拘束を取り入れている。	施設長、管理者とケアマネ5人による委員会を開催し、身体拘束の実例やグレーゾーン、スピーチロックなどへの対応などを協議し、職員に周知している。ロウベン対策として、家族の了承を得て、ツナギ服を着用している。玄関の施錠は夜間のみで、チャイム、鈴を設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	介護職員へは、資料や報告書を配布、内容周知に努めている。虐待防止については、毎月ユニット会議に合わせて行う研修会で、年1回研修内容として取り入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を活用している方がいる為、その内容は共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、ご家族宅へ訪問又は来所して頂き、十分に説明を行ったうえでやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回施設長、管理者、ケアマネが集まり会議(連絡会議)を行い、話し合いの場を設けている。	毎月の生活状況を居室担当作成の「最近の様子」にまとめ、家族にお知らせしている。家族の来所や電話等の際に家族の要望等を聴き取り、また利用者からの要望に基づき、くだものやケーキ、栄養ドリンクなども提供している。家族の面会は、予約での相談室での再開を、感染症の発生により日程調整の上で対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回各ユニットでユニット会議を開催し、現場からの意見を吸い上げ、連絡会議(施設長、管理者、ケアマネ等出席)にて検討している。	年度始めに、職員ごとの目標を立て、業務に当たるほか、その成果を年度末に聴き取り、今後の対策等に活かしている。職員提案の室内行事やドライブ、ミキサーの購入、夜勤の勤務時間、体制の変更、研修会への参加、資格取得の研修会費用の支援などを行なっている。	

事業所名 : グループホーム あさひ東館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備には取り組んでいる。今年度は、アンケート調査の実施、個人の目標や職場に対して求めるもの等を対象に調査した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット会議に合わせて、短時間の研修を毎月実施。今年度は、アンケート調査の実施結果をもとに、評価しフィードバックを予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やケアマネ等を中心に、地域の他の事業所との情報交換は行う様に心がけている。相互訪問などの実施は行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネのアセスメントやケアプランを中心に本人の状態や意向の把握に努める。その後は、担当職員とケアマネを中心に、月1回のユニット会議内で入居者様の様子や変化等を話し合う時間を設け、情報共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申請時の相談を受け、更に利用前に自宅(病院)へ訪問、本人、家族との面会等を行い再度意向要望を確認。その情報をまとめ情報共有を行った上で利用開始して頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とする支援に関して他のサービス利用を視野に入れる必要がある場合は、最初に併設している事業所の可能性を考慮する。さらに、他の事業所も含め他のサービス利用の選択肢も家族へ都度提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事は維持出来る様に支援している。また、利用者様同士の間人関係(トラブルや言い合いもある為)を居室やユニットの移動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は、事前連絡を頂き、別室での面会を実施。他の面会者同士が重ならない様に配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前の馴染みの関係を継続する事が難しい状態の方が多くもあり、隣接する施設との交流を行うことで、新たな関係性の構築に努めている。	コロナ禍により、知人等の来所者は少ないが、小規模多機能ホーム利用者が挨拶に來たりしている。整髪は地域の理容師が来所するほか、美容院に出かける利用者もいる。買物希望はないが、おやつとして小豆ハット、甘酒などを提供し、昔を懐かしんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係把握に努めている。利用者の「好き嫌い」に配慮した支援を行っている。また、独りを好む方への配慮も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院期間が長くなり、利用中止(契約破棄)になったご利用者様に対しても相談に応じ、必要であれば経過をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の過ごし方や言動を観察し把握に努めている。担当職員を中心に、ケアマネと協力しプランにし、情報共有している。	利用者は日常生活において、それぞれ家事のお手伝いをしているほか、洗濯物のたたみ方や新聞紙などでゴミ箱を作るなど、思い思いに過ごしている。また、帰宅願望の強い方には、その状態を見ながら上手く声掛けするなど気持ちを切り替えられるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に本人の生活歴を調査した内容(アセスメント)によって、各職員が把握する様にしている。また、日常的な会話の中から情報を得る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や排便状況の確認等変化を追うことで現状の把握に努めている。また、3ヶ月に1回位のペースで担当職員が評価(身体機能の評価と認知面の評価)を実施している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム あさひ東館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われるユニット会議で、担当職員とケアマネを中心に、利用者の変化や様子、必要な支援等を話し合っている。また、変化に応じて都度報告し合い、家族を交えてケアマネの内容を変更している。	短期3ヵ月、長期6ヵ月ごとに計画の見直しを行っている。原案を居室担当とケアマネが作成し、ユニット会議で検討の上でケアマネがモニタリングを行い、管理者の意見を伺い、家族に説明、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は行っている。職員間の情報交換に関しては、日報等で申し送る。また、毎朝の申し送りでも情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の生活状況に合わせてサービス提供を行うように努めている。 家族の支援が難しい場合は、保険外サービス(ほほえみサービス)の提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通常は、家族だけでなく近所の方、親戚など本人が今まで関わってきた方の把握に努め、面会等は柔軟に対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用以前の主治医がいる方に関しては、極力主治医を変更しない様な支援をしている。 また、主治医が変更した場合も職員が同行したり、各病院の相談員と連携を取るようになっている。	入居前のかかりつけ医を受診している。家族同伴で2名、家族の要請による職員同行が7名である。家族には利用者の状況を記載した連絡表を託している。受診後は、家族に報告するとともに、個別カルテに記録保存している。脳神経科、消化器科、眼科、皮膚科も同様である。歯科は訪問診療である。コロナの予防接種は市指定の病院で行い、インフルエンザはかかりつけ医で対応した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置してはいないため、適切な看護が受けられているわけではないが、併設施設の看護師に相談可能な状況ではある。 さらに、受診対応に関しては異常があった場合極力早い対応を心がけている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム あさひ東館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、必要がある場合は情報提供(3日以内)を行う。また、退院に関しては各病院の相談員を窓口に関係の方とも連絡を取り退院後の受け入れ円滑に行える様に取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所単独では実施していない。しかし、看取りに関しては、数年前より、関連施設が整備された為、「看取り」を希望される方には、そちらも紹介している。	看取りに関する指針等は作成しておらず、対応はしていない。食事を口から食べられないなど重度化した場合は、家族に意向等を確認のうえで隣接の特養を案内する機会が多い。これまで看取りの経験はなく、過去に看取り搬送を一度行ったことがある。また、看取り等に係る研修なども実施していない。	重度化した場合や終末期の介護サービスについて、勉強会や研修会を開催し、より一層、職員の知識や技術を修得し、体制の充実を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応のマニュアルを掲示したり、AEDの講習会を開いている。 また、職員には緊急性を感じたら迷わず119番通報(救急車の要請)するように周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、地震津波災害を想定した訓練を実施。全利用者を久慈市の指定避難場所への避難を実施した。	総合訓練を11月に実施し、夜間想定で行い、隣接の施設から訓練の支援があった。3月には第2回を予定している。ハザードマップで、浸水地域に指定されており、避難場所の確認のほか、津波、河川氾濫の際には、車使用又は2階への避難などで対処することとしている。食材は3日分を備蓄し、発電機、反射式ストーブも整備している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや人格の尊重は心がけている。また、言葉遣いに関しても、ユニット会議での議題として改善に取り組んでいる。	利用者個々の対応に関し家族へ十分説明し、職員は知りえた情報を他に漏らすことがないように徹底を図っている。個人情報、個別にファイル保存し、事務室で管理している。利用者の居室へ入る際にはノックし声掛けするなどプライバシーには配慮している。また、失禁した際にはそっと声掛けするなど、さりげなく対応している。	
----	------	--	---	--	--

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム あさひ東館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重し、自己決定できる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人がその日どのように過ごしたいかの希望に添っている時間帯もあるが、基本的には、日課を取り入れたり、全体的な流れにそった支援をしている。 参加したくないという人の意思は尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみがちぐはぐにならない様、TPOに合った服装の手伝いをしている。 また、個別で使用する化粧品等の使用にも支援するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みや能力に応じて提供しているが、苦手な食材がある場合は可能な限り代用品を用意して対応している。また、出来る利用者様とは職員と一緒に片付け等を行っている。また、おやつ の買い物や居室での飲食も実施している。	食事は隣接の運営母体が調理したものを、当施設で温めて盛り付けし提供している。誕生日には刺身を提供するなどして喜ばれているほか、おやつにホットケーキ、たこ焼き、あずきぱっとなどを提供し食を楽しんでいる。また年末年始には年越しそばやお節料理など、節句ごとに合った食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握は行っている。また、体重測定を行い、体重の変化に応じた対応を行っている。また、水分補給には気を使い、お茶や水だけでなく、経口補水液を作り、身体状況や好みに応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っている。なるべく本人に行ってい頂けるような促しを行っている。 また、口腔内の異常を発見した場合は、都度歯科受診対応等(往診等)を行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あさひ東館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症の進行に伴い、トイレを認識できない方が増えているが、トイレ誘導や声かけを行い、なるべくトイレでの排泄を行なって頂けるような支援を心掛けている。	排泄チェック表により、排泄パターンを把握し、時間、タイミングなどで声掛けを行うなど、個々人に配慮した対応を心がけている。自立は5名で、布パンツ1名、他者はリハビリパンツ、パット併用である。介助は見守り、ズボンの上げ下げ、拭き取りなどである。失敗した場合には、それとなく話しかけ、利用者の心情を大切に、居室、トイレ、浴室でのシャワーで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状態(排便の有無)の把握には努めている。飲食物の工夫や運動の働きかけも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては入浴日を設けて案内している。ただし、一人ずつ入浴しており、洗体を行える方にはなるべく洗って頂いている。	週2回、月曜日と木曜日に全員が入浴している。車椅子対応には、小規模多機能ホームの機械浴を活用している。熱い湯の希望には、追加湯をしている。入浴後のクリームや塗布や希望者への足湯を提供している。入浴は、世間話などで、職員とのコミュニケーション場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間(消灯)は設けておらず、その人の生活習慣に応じて就寝して頂いている。また、昼夜逆転の予防としても、可能な範囲で日中活動的に過ごして頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員を中心に、本人の服薬状況の把握に努めている。誤薬や服薬もれをしない様に工夫をしている。服薬に関する問題点や疑問は、近所の薬局の薬剤師に相談できるように連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や役割、嗜好品にも努めている。 季節毎のイベント(節句)を大切にレクを行い、気分転換をはかっている。 また、プランター畑の野菜の採取をお願いすることもある。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム あさひ東館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望がある方が中心となるが、施設周辺を散歩する機会を設けたりしている。また、バスバイク等が多いが、外出する機会も設けている。	天気の良い日は、散歩やウッドデッキで外気浴をしている。庭のプランターへの水遣り、草取り、収穫をしている。ドライブは2台に分乗し、2か月に1回、花見や紅葉見学など、近隣の町の観光地やダムなどに出かけど外出機会を増やしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方や金銭管理が出来る方に関しては、家族と協議し所持金を管理してもらっている。 基本的には、金額は家族に決めてもらうが、高額にならない様に依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人、家族の希望に添って対応している。 家族の希望に合わせ、随時電話での会話を出来るに支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感や混乱をまねく可能性があるものへの配慮は行っている。 また、季節感を感じれるような貼り絵や飾り付けを心がけている。	白と木調の壁に利用者の作品や活動の写真が貼付、掲示されている。大型の窓から光が入り、明るく、清潔感がある。利用者が日常的に過ごすホールは、エアコン、パネルヒーターで温度調整され過ごししやすい配慮がなされている。広さは使用者全員が十分くつろげるスペースが確保され、全員がそろって食事ができる机も配置されている。また、ホールに配置している二人掛け用ソファは定期的に配置場所を変更するなどし、気分転換にも役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で気のあった利用者同士で過ごせるような配慮に努めている。 また、座席やテーブルの配置を配慮し、利用者同士の相性等を尊重して対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へはご自宅で使用していたものを持込んでもらったり、家族や本人が希望するものを持込んでもらい、少しでも安心できるような配慮をしている。	ベッド、エアコン、パネルヒーター、テレビ端子、ナースコールが設置され、衣装ケース、小筆筒、車イス、家族写真、仏壇が持ち込まれ、壁には、活動の写真や塗り絵等の作品が貼付されている。利用者の意向に沿った配置となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あさひ東館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは危険がない様に見守りをしながら、本人に行っていたりけるような支援を心がけている。		